



2019 FUN&RUN! 2-WHEELS 1

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

RACE // ROAD STAR // NEO STANDARD

6 Sat. April

イベント全体概要報告

■開催概要

- 大会名称 : 2019 FUN & RUN! 2-Wheels [1] in SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE (MFJ承認競技会)
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース/東コース (2.243km)
三重県鈴鹿市稲生町7992 TEL:059-378-3405 FAX:059-378-3625
- 開催日 : 2019年4月6日(土)
- 天候 : 快晴/路面:ドライ
- 開催クラス : ★総参加台数/125台
 - ROAD STAR CHALLENGER I 3台
 - ROAD STAR I 5台
 - ROAD STAR EXPERT I 12台
 - ROAD STAR II 5台
 - ROAD STAR EXPERT II 8台
 - FUN & RUN Mix Small/EXPERT 10台
 - ST250 6台
 - FUN & RUN Mix Big/EXPERT 19台
 - NEO STANDARD<Ninja250R> 18台
 - NEO STANDARD<YZF-R25> 13台
 - NEO STANDARD<CBR250R> 15台
 - NEO STANDARD<VTR250> 2台
 - NEO STANDARD<G310R> 9台

■次回開催予定

- 大会名称 : 2019 FUN & RUN! 2-Wheels [2] in SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット・国際レーシングコース/東コース (2.243km)
- 開催日 : 2019年5月5日(日・祝)
- 開催クラス : NEO STANDARD (Ninja250R/YZF-R25/CBR250R/VTR250/G310R)、ROAD STAR WARS I、ROAD STAR WARS II、ROAD STAR CHALLENGER I、ROAD STAR I、ROAD STAR II、ROAD STAR EXPERT I、ROAD STAR EXPERT II

★レースリザルトは、インターネットでご覧いただけます。

リザルトページ https://www.suzukacircuit.jp/result_s/

★レース写真は、バトルファクトリー様のHPでご購入いただけます。

バトルファクトリーHP <http://www.battle.co.jp/>





2019 FUN&RUN! 2-WHEELS 1

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

RACE // ROAD STAR // NEO STANDARD

6 Sat. April

開催クラス紹介

【NEO STANDARD】

現在、各社から発売されている、手頃な車両価格で最も人気の高い4ストローク250ccマシンによるエントリークラス。カワサキNinja250R、ホンダVTR250、ホンダCBR250R、YZF-R25の4車種に加え、さらに今年からBMW G310Rが使用できるようになりました。スプリントレースでありながら、途中ライダー交代またはピットインが必要となります。また、チームエントリーでシリーズ戦として開催し、車両別となったカテゴリーでのチャンピオンが決定するのも人気の理由。ライダーを1大会2名まで登録することができ、チームとしても楽しめる、経済的なクラスとなっています。

●参加車両例 カワサキNinja250R ホンダVTR250 ホンダCBR250R ヤマハYZF-R25 BMW G310R

【ROAD STAR (CHALLENGER/EXPERT) I/II】

※CHALLENGERは「I」のみ

ROAD STAR WARS同様、一般公道走行が認められるナンバー付車両による競技です。ROAD STAR WARSとは違い、こちらは全て「タイムアタック形式」の競技となります。また、ライダーのスキルにより、入門者にはCHALLENGERクラスから、上級者にはEXPERTクラスまで幅広く参加できるクラスとなっています。

●参加車両例 ホンダCBR1000RR ヤマハ YZF-R1 トライアンフ デイトナ675 ビューエル XB9S スズキ TL1000S

【FUN&RUN Mix Big】

今季から、FUN&RUN Mix Big+OPEN Racer/EXPERTクラスは「FUN&RUN Mix Big」に名称が変更となりました。「Mix Big」は、国内外のV型2気筒エンジン搭載車と一般生産型の車両で4ストローク401cc以上のマシンなら何でも参加可能なクラス。国内外メーカーのツインバイク、そしてビッグネイキッドが一堂に会するレースは迫力が違います。「Racer」クラスは排気量が2ストローク251cc/4ストローク401cc以上でホイールサイズが16インチ以上であればどんな車両でも参加可能なクラスです。

●参加車両例 ホンダ CBR1000RR ヤマハYZF-R6 スズキ GSX-R600
ホンダ CB1300SF ヤマハ XJR1300 スズキ GSF1200 カワサキ GPZ900 ドゥカティ 999S
ドゥカティ 1098S アプリリア RSV1000R ホンダ VTR1000SP1

【FUN&RUN Mix Small】

いわゆるシングルや小排気量車、すなわち排気量が2ストローク250cc/4ストローク750cc以下でホイールサイズが16インチ以上の一般生産型市販車、単気筒および2気筒エンジンを搭載するバイク、そして400cc以下と2ストローク250cc公道用一般車両が対象となります。一世を風靡したレーサーレプリカなど個性的なバイクが参加します。排気量と気筒数により、Small I、Small IIと参加車両のカテゴリーが分かれています。

●参加車両例 ホンダ NSR250SE ヤマハ TZR250RS ヤマハ SRX600 スズキ SV400S
ホンダ CBR400RR カワサキZXR400R

【ST250】

鈴鹿サンデーロードレースで2010年に入門クラスとして新設され、適度なパワーや低コストで参加できることなどから、現在最も注目を集めてきているクラス。4ストローク201cc以上250cc(最大2気筒)以下の公道用一般車両をベースとし、ストッククラス=最小限の改造とコストで参加できる参加型レースを基本理念としています。現在、多くの参加台数を集めていることから、今季からファンランでも開催します。

●参加車両例 カワサキ Ninja250R ホンダ VTR250 ホンダ CBR250R ヤマハYZF-R25 Megelli250r

2019年シーズン、鈴鹿サーキットの2輪レースが例年通り、“ファンラン”から本格的にスタート!

「みんなで走ってバイクをもっと楽しもう!!」をコンセプトに、1999年に始まった「FUN & RUN! 2-Wheels(ファンラン)」は開催20周年を迎えたイベント。今シーズンの鈴鹿サーキット2輪レースが例年通りこのファンランからスタートした。

ファンランの魅力はなんと言っても様々なバイクのレースやタイムアタックが見られること。中でも特に注目を集めているのがナンバー付きのバイクで参加できるレース競技のROAD STAR WARSクラスや、それらのバイクによるタイムアタック競技のROAD STARクラスだ。普段乗っているバイクでそのまま楽しめるため、ファンラン開催当初から高い人気を誇ってきたROAD STARクラスには合計33台が参加。白熱したタイムアタックが披露された。

また、昨今はシリーズ全4戦を最大8名で参戦できるNEO STANDARDクラスも人気を集めている。2010年にスタートしたこのカテゴリーは参戦マシンが比較的リーズナブルな価格帯で販売されており、参戦しやすいことに加え、スプリントレースでありながらレース途中でのライダー交代またはピットインが義務付けされており、セミ耐久のような楽しみ方も可能。ポイントがライダーではなくチームに付くため、大人数で楽しめるのも特徴のひとつだ。2018年シーズンよりBMW G310Rクラスが新設され、さらに魅力が増したこのカテゴリーには合計57台が参加。<Ninja250R/YZF-R25>と<CBR250R/VTR250/G310R>の両レースにダブルエントリーするチームもあった。最もハイスピードなバトルが展開されてきたMix Big+OPEN Racerクラスだが、今シーズンからMix Bigクラスに改称され、OPEN RacerはC-OPENカテゴリーとして継続開催されることになった。このカテゴリーでも迫力あるバトルが展開された。

今回はゴールデンウィーク真っただ中の5月5日(日・祝)に開催される第2戦。ナンバー付き車両による「ROAD STAR WARS」「ROAD STAR」の両クラス、そして「NEO STANDARD」クラスのレースが開催される。また、6月2日(日)の第3戦では1974年までに生産された往年の名車による「CLASSIC」クラスも開催され、さらに9月7日(土)の最終戦は「Full Course Special」として文字通りフルコースを使った大会として行われる。このように今シーズンも見どころ満載の

“ファンラン”に是非注目していただきたい。



FUN & RUN Mix Big/EXPERT 決勝スターティンググリッド



2019 FUN&RUN! 2-WHEELS 1

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

RACE // ROAD STAR // NEO STANDARD

6 Sat. April

レースレポート-1【タイムアタック形式競技】

ROAD STAR I / ROAD STAR CHALLENGER I / ROAD STAR EXPERT I

まずはROAD STAR CHALLENGER I / ROAD STAR Iのタイムアタックからスタートする。高光智之が59秒767という唯一1分を切るタイムをマーク。高光は58秒825をマークして自己ベストを更新するが、次の週の1、2コーナー間で転倒。その時点でタイムアタック終了となるが、高光の58秒825が総合トップタイムに。高光を含む上位3名は次回からROAD STAR EXPERT IIに挑むこととなった。

続いてROAD STAR EXPERT Iのマシン12台がコースイン。楠田祐樹がアタック1周目に57秒761をマーク。それに葛岡勝徳、早川泰治、西溜英夫と続く。楠田は6周目に56秒721をマークして自己ベストを更新。葛岡も56秒台となる56秒995をマークする。その葛岡が15周目に56秒406をマーク。葛岡は16周目に56秒172をマークしてさらにタイムを短縮。それが総合トップタイムとなった。



ROAD STAR I 総合仮表彰式
(優勝:高光智之、2位:滋野敬宣、3位:岡村一秀)



ROAD STAR CHALLENGER I 総合仮表彰式
(3位:山本大輔)



ROAD STAR EXPERT I 総合仮表彰式
(優勝:葛岡勝徳、2位:楠田祐樹、3位:早川泰治)



2019 FUN&RUN! 2-WHEELS 1

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

RACE // ROAD STAR // NEO STANDARD

6 Sat. April

レースレポート-2【タイムアタック形式競技】

ROAD STAR II / ROAD STAR EXPERT II

坂之下孝秀が3周目にこの時点で唯一1分00秒台となる1分00秒582をマーク。これは坂之下自身がフリー走行でマークした1分00秒728をすでに上回る好タイムだ。それに1分01秒089の清水誠、1分01秒275の松本健一と続く。清水は6周目に1分00秒896をマーク。小屋康二も1分00秒951をマークして清水に続く。7周目に清水が1分00秒777をマークして自己ベストを更新。小屋は同じく7周目に1分00秒598をマークして2位に浮上する。再びコースインした坂之下が8周目に1分00秒174をマーク。それが総合トップタイムとなった。



ROAD STAR II 総合仮表彰式
(優勝:立間文章、2位:幾田晃弘、3位:徳田靖)



ROAD STAR EXPERT II 総合仮表彰式
(優勝:坂之下孝秀、2位:小屋康二、3位:清水誠)



2019 FUN&RUN! 2-WHEELS 1

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

RACE // ROAD STAR // NEO STANDARD

6 Sat. April

レースレポート-3【レース形式競技】

NEO STANDARD<Ninja250R／YZF-R25>

5番グリッドスタートの鳥居典生がスタートでポールポジションスタートの松浦光利に並びかけるが、ホールショットを奪ったのは松浦。松浦、8番グリッドスタートの鈴木克正／中村和悦組の鈴木、鳥居のオーダーでオープニングラップを終える。鈴木が2周目に松浦をパスしてトップに。鳥居も松浦をパスして2位に浮上。鳥居は鈴木をもパスしてトップに立つ。8台によって形成されたトップグループの中から松浦、鈴木、鳥居が後続を引き離すことに成功。そこからさらに松浦と鈴木が抜け出す。鈴木は22周目終了時点でピットへ。中村にライダーチェンジする。松浦は23周目終了時点でピットイン。松浦が中村の前でコースに復帰する。松浦、終盤に中村をパスした鳥居のオーダーでチェッカー。松浦が総合優勝を飾ると同時にYZF-R25クラスのウィナーに。Ninja250Rクラスを制したのは総合4位の山本晃久だった。



NEO STANDARD<Ninja250R>仮表彰式
(優勝:山本晃久、2位:花田定夫、3位:西良英之)



NEO STANDARD<YZF-R25>仮表彰式
(優勝:松浦光利、2位:鳥居典生、3位:鈴木克正／中村和悦)

NEO STANDARD

<CBR250R/VTR250/G310R>

2番グリッドスタートの鈴木克正／中村和悦組の鈴木、ポールポジションスタートの松浦光利／早野巖組の松浦、3番グリッドスタートの花田定夫のオーダーでオープニングラップを帰ってくると、2周目に松浦が鈴木をパス。松浦、鈴木、花田がトップグループを形成する。7周目を終了する頃になるとその3台はそのオーダーのままそれぞれ単独状態に。松浦は8周目にファステストラップをマークし、2位以降とのアドバンテージをさらに広げる。その松浦が21周目終了時点でピットに入り、早野にライダーチェンジ。22周目終了時点では花田がピットイン。さらに23周目終了時点で鈴木がピットに入り、中村にライダーチェンジする。終盤に逆転した花田が総合優勝を飾ると同時にCBR250Rクラスのウィナーに。G310Rクラスを制したのは総合4位の松浦／早野組。総合9位の樋口圭祐がVTRクラスを制することとなった。



NEO STANDARD<CBR250R>仮表彰式
(優勝:花田定夫、2位:鈴木克正／中村和悦、3位:大倉拓夢)



NEO STANDARD<VTR250>仮表彰式
(優勝:樋口圭祐、2位:上平真、3位:高橋潤)



NEO STANDARD<G310R>仮表彰式
(優勝:松浦光利／早野巖、2位:上田孝之(失格)、3位:中森健将)

FUN & RUN Mix Small / EXPERT+ ST250

2番グリッドスタートの丹後明義がウォームアップラップでマシンを止める。3番グリッドスタートの柴田直行が良いクラッチミートを披露するが、オープニングラップをトップで帰ってきたのは5番グリッドスタートの渡辺泰久。それに柴田、6番グリッドスタートの可部谷雄矢と続く。スタートで出遅れたポールポジションスタートの大竹洋司が2位まで順位を上げて3周目を終了。4周目には渡辺がトップに。同じく4周目に竹廣草生が大竹をパスして2位に浮上する。その後も渡辺、竹廣、大竹、柴田の4台がテールtoノーズのバトルを展開する。一時的に大竹が後続を引き離すことに成功するが、9周目になると大竹の背後に竹廣が接近。ファイナルラップの最終コーナー立ち上がりで大竹をパスした竹廣が優勝を決めた。



FUN & RUN Mix Small EXPERT 総合仮表彰式
(優勝:渡辺泰久、2位:芝井賢一、3位:三晶直嗣)

FUN & RUN Mix Big / EXPERT

ポールポジションスタートの井沼真樹が良いクラッチミートを披露してホールショットを奪う。4番グリッドスタートの富樫崇郎がその井沼をパス。富樫、井沼、5番グリッドスタートの加藤喜寛のオーダーでオープニングラップを終える。富樫、井沼、加藤に2番グリッドスタートの内田洋一と3番グリッドスタートの高村信二を加えた5台がトップグループを形成。そこから若干離れ、最後尾スタートの白石克郎が6位で続く。次第に井沼がトップに。その背後に高村が接近すると、井沼と高村の2台は後続を引き離すことに成功する。8周目の1コーナーで高村が井沼をアウト側からパス。高村は次第に単独トップに。結局、高村が井沼に2秒643ものアドバンテージを築いてトップチェッカー。それに井沼、加藤と続いた。



ST250総合仮表彰式
(優勝:高木真、2位:海良幸治、3位:明後邦彦)



FUN & RUN Mix Big / EXPERTカテゴリー別表彰式
(OPEN EXPERT優勝:高村信二、OPEN EXPERT 2位:井沼真樹、Mix Big EXPERT I優勝:内田洋一)